

法人 第 14 期

2024.7

2025.6

桜ライン 311 活動報告書

Sakura Line 311
ANNUAL REPORT 2024



認定特定非営利活動法人 桜ライン 311

〒029-2205 岩手県 陸前高田市 高田町字大隅 93-1
高田大隅つどいの丘商店街 12号

0192-47-3399 (TEL) 0192-22-8989 (FAX)

info@sakura-line311.org <https://www.sakura-line311.org>

表紙は陸前高田市の津波到達ラインに咲く桜をイメージしています

「私たちは悔しいんです。」という思いから始まった桜ライン311は、2025年7月1日、法人として第15期を迎えることができました。節目の日を迎えるたびに、組織を預かる者として身が引き締まる思いです。続けることの難しさと、続けてきたからこそ得られる喜び。その両方を噛みしめながら、14年の歩みを重ねてまいりました。

東日本大震災での被害の大半は津波によるものでした。あの「未曾有」と言われた災害は、今では周期的に発生するものだと地質学的に明らかになっています。もし震災前に、過去の津波災害が広く知られていたなら、守れた命があったのではないか――。それが、私たちの「悔しさ」の原点です。次に必ず訪れる災害の際、どれだけ人的被害を減らせるか。それが震災の教訓を後世に伝えた証だと考えています。そのための

「伝承」が、私たちの活動の核です。

「災害で生まれる悲しみを2度と繰り返さない未来を創る」このビジョンのもと、陸前高田市の津波到達点に桜を植え、その意味を伝え、守る活動を続けています。震災を知らない世代にも関わってもらい、災害を「他人事」（ひとごと）ではなく「自分事」として感じてもらう。そして、いざという時には桜並木より高い場所に避難する行動へつなげる。それが設立時から変わらぬ、私たちの願いであり覚悟です。

2011年10月に任意団体として発足し、2012年5月に法人化。2014年5月からは認定NPO法人として活動を続けてまいりました。これまでに9,903名が植樹活動に参加し、2,370本の桜を植樹。ご理解をいただいた地権者の方々も400名を超えました。

これらの実績は、地域の皆さま、日本全国の皆さまの共感と参加の賜物です。

第14期では、春の植樹会直前に隣町・大船渡市で山林火災が発生し、開催中止も検討しましたが、最終的に「止めない」と判断し実施しました。防災・減災に向き合う団体として、災害について考える機会を持つことこそ重要だと考えたからです。近年は能登半島地震や全国各地の豪雨など、災害の頻度が増しています。特に豪雨は「日常の一部」と言えるほどであり、防災を日常化する意識が今こそ求められています。

また、火災を受けて実施した義援金募金では、募金箱を中心に110万円を超えるご支援をお預かりし、大船渡市へお届けしました。ご協力いただきました皆さまに、改めて感謝申し上げます。

この数年は、植樹会や講演に加えて、大阪マラソン参加、剪定枝を使った草木染め、看板設置、ライトアップ、散策会など、新たな参加の入口づくりにも力を入れてきました。震災から時間が経つほど、「伝えていくこと」の重みは増しています。

第15期もより多くの方に活動を知っていただき、共感し、参加していただけるよう努力してまいります。今後とも変わらぬご支援・ご指導を心よりお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人 桜ライン311

代表理事 岡本 翔馬

役員・事務局一同

撮影日：2025年4月8日 陸前高田市高田町浄土寺
植樹日：2011年11月6日 カワヅザクラ3本

私たちは、悔しいんです。

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、1時間以内に東北各地を津波が襲いました。

陸前高田市でも多くの人が時間を止めました。

その後、「実は、今回と同規模の津波が三陸沿岸を飲みこんだ記録や痕跡がありました。」との、ニュースが流れていました。

10 mを超える津波の可能性が、震災前から声高に叫ばれていれば！

震災前の防潮堤には、限界があることを知らされていれば！

津波によって奪われた命は、もっと少なくて済んだのではないか？

その思いが、今も頭を巡ります。

私たちは、悔しいんです。

その思いを同じくする者が集まり、「桜ライン311」を立ち上げました。

次の時代が、この悔しさを繰り返すことのないように、今回の津波の到達点を桜の木でつなぎ、後世に伝えたいとおもいます。

現在、瓦礫撤去が進み、津波の到達点がほやけ始めている今、一日も早く、やりたいんです。

でも、私たちだけでは、限界があります。

皆さんの力を貸してください。お願いします。

(2011年10月)

撮影日：2024年11月20日 陸前高田市小友町金浜

植樹日：2015年3月13日 シキザクラ

※シキザクラは、春と秋の2回花を咲かせる品種です。

事業報告 植樹事業

文・佐藤一男



桜ライン311の三本柱の一つである植樹事業は、東日本大震災の津波の最高到達点へ桜を植え、後世に避難の目印を伝えることを目的としています。

私たちは、桜をつなぐことは未来の命をつなぐことだと思っています。

植樹活動は、設立以来、毎年、春と秋の植樹会を基本に活動を継続してまいりました。今年度末時点で2,370本の桜の植樹が完了しています。これもひとえに地権者さまのご厚意と累計9,904名にも及ぶ参加者さまと活動を支えてくださる支援者さまのご協力のおかげです。

今期の植樹会もセレモニーありの集合型と、平日も対応とした個別型の2種類を実施しました。秋の集合型は11月と12月の2回実施予定でしたが、12月は参加申込がなく開催を中止し、個別型は21回実施しました。中止会があったものの206名にご参加いただきました。また、新たな試みとして集合型に先立ち、代表岡本による講演会を開催したことで、初めての参加者はもちろん、リピーターの方々にも改めて活動の意義を伝える機会となりました。春には、集合型を1回、個別型を22回実施しました。春の集合型の会場は、大船渡市の山林火災の影響で当初予定していた陸前高田市総合交流センターが使用できず、急遽今泉地区コミュニティセンターへ会場変更となりました。中止も検討しましたが防災・減災を啓発する団体として、開催を決断しました。

これらの活動には秋春、延べ731名、そのうち364名は学校植樹会（7回）による参加でした。植

樹作業中、地権者さまが現地を訪れて震災当時のお話をしてくださる場面もあり、参加者一人ひとりが植えた桜への思い入れが一層深まる貴重な機会となりました。

また、全箇所確認では昨年度、追肥作業を強化したことで、これまで花が咲かなかった桜に花が付き始め「やっと咲いたね」と地域の方々から笑顔で声をかけていただくこともありました。肥料の配合を試行錯誤しながらも、こうして成果が得られたことは地権者さまだけでなく私たちも嬉しく、自信にも繋がりました。しかし、全箇所確認の実施本数は前年同様約1800本で、作業効率化が求められます。また、地域の高齢化が進み「草刈りをしてくれるなら桜を植えてもいい」という声が増えており、「草刈りのために桜を植える」というような本来の目的から外れてしまう可能性に不安も感じています。

苗木の購入については、(公財)三菱UFJ環境財団さまの助成金の他、全国の皆さまから「苗木寄附」として苗木の購入費をご寄附いただきました。加えて、(公社)国土緑化推進機構さまの助成金を活用し、植樹資材の購入費などに充てました。

今後の課題としては、震災から10年以上が経過した今、植樹地の確保はますます困難になってきています。放置された雑木林や竹林の整地には1～2週間を要することもあり、全箇所確認業務においても人手不足が挙げられます。草刈りの効率化を図るため、現場作業に特化した人員を増やし、パートスタッフの技術向上にも取り組んでいます。また、忌避剤の販売終了に伴う害獣対策の見直しも急務です。

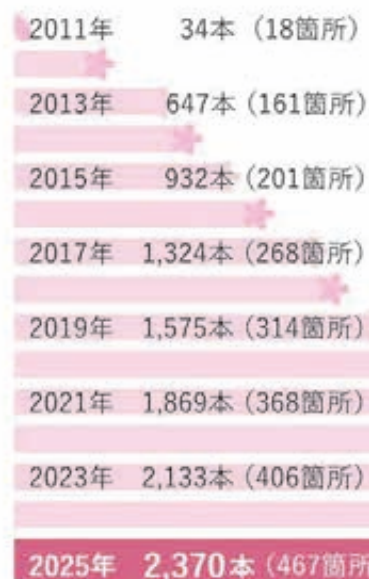
津波到達点に建てられた慰霊碑の側にも桜を植樹しており、春には桜が咲き誇っています。今も遺族が訪れる『祈りと記憶の場』を守り、次の世代へとつなげていく取り組みでもあります。私たちは、震災の記憶と向き合いながら、今後も地域の皆さまとともに歩み続けてまいります。



01) 2024 年秋の植樹会 集合写真 02) 植樹前に震災で犠牲となられた方へ黙祷 03) 2025 年春の植樹会
04) 地権者さまの話を聞く様子 05) 桜の全箇所確認を進める様子 06) 桜の根の周りに追肥

植樹会

2024年 11月16日～12月12日	秋の植樹会（個別型）	2025年 3月8日～3月29日	春の植樹会（個別型）
11月30日	秋の植樹会（集合型）	3月15日	春の植樹会（集合型）
12月14日	秋の植樹会（集合型）中止	3月30日	理事植樹会
12月14日	理事植樹会		



※ 2025年4月末時点の植樹実績及び参加実績になります。

※ 植樹実績推移および参加実績推移は、隔年で表記しております。詳しい内容をご希望の際は、事務局までお問い合わせください。

事業報告 普及啓発事業

文・嶋村 美和



「災害で生まれる悲しみを2度と繰り返さない未来を創る」

桜ライン311はこのビジョンの達成を目指し、日本各地で講演活動を行っています。

今年度は40回の講演・広報活動を実施し、延べ2,253名が参加しました。震災の経験を背景に、桜の植樹を通じた防災・減災の大切さを広く伝え、企業・自治体・学校と幅広い場で防災意識の向上に寄与しました。

その中でも特筆すべきは、2025年1月に愛知県名古屋市「でんきの科学館」で開催された中部電力株式会社さま主催の「子ども減災防災講座」です。「ちゅうでん森きっず」プロジェクトの一環として当団体を寄附先に選んでいただき、6歳から15歳までの子どもと保護者96名が参加しました。当日は震災の経験を伝える講話に加え、非常時に役立つ体験型ワークショップとして「ポリエチレン袋を使った炊飯」や「水からつくるカップ麺調理」を実施しました。アンケートには「親子で楽しく学べ、家庭の備えを見直すきっかけになった」「体験が記憶に残るので大切」「陸前高田の桜を見に行きたくなった」などの声が寄せられ、子どもたちの学びが家庭や地域にも広がる手応えを感じました。この様子は動画配信でも紹介され、多くの方に活動を知っていただく契機となりました。

学校植樹会も7回実施しました。11月には陸前高田市立高田小学校の、4・5年生50名が津波到

達地点に苗木を植樹。仮設住宅を「当たり前」として過ごした経験や、時と共に変化する家族や暮らしの姿を見て感じてきた世代です。その成長の一端が作業中の会話からも垣間見え、震災を知らない世代が「地域の未来を守る」役割を確かに受け継いでいることを実感しました。先生方からも「子どもたちにとって貴重な体験になった」とのお言葉をいただきました。

また、新潟市立内野中学校2年生238名が修学旅行で来訪し、講演と植樹を2年連続実施。2023年に講演を聞いた生徒が、その経験を生かして能登半島地震の際に無事避難できたとの報告が同校に寄せられたそうです。近年、県外からの修学旅行などでの受け入れが増えており、継続的な防災教育の広がりを感じています。

さらに2025年4月、陸前高田市立横田小学校の3年生7名を対象に初めての散策会を実施。市街地や開花した植樹地を歩きながら津波到達地点や避難ルートを確認し、地権者さまの体験談にも真剣に耳を傾けました。自分ごととして学びを体感できる伝え方を模索する大切な機会となりました。

最後になりますが、緊急人道支援として、2024年9月に発生した能登半島豪雨災害では88,958円を石川県へ、2025年2月に発生した大船渡市山林火災では1,135,405円を大船渡市へ送金しました。被災地支援にご協力いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

桜の植樹を軸とした伝承活動に加え、講演や散策会、義援金活動を通じて防災・減災の輪は確実に広がっています。震災の記憶を未来へつなぐため、今後も一つひとつの出会いを大切に、全国の皆さまと共に歩み続けてまいります。



01、02) 学校植樹会(陸前高田市立高田小学校、新潟市立内野中学校) 03) 陸前高田市立横田小学校 桜の散策会
04) 植樹前の事前講演会 05) 緊急募金活動 大船渡市へ募金目録を届ける

学校植樹会

2024年 11月 11日	陸前高田市立高田小学校 4年生	11月 26日	陸前高田市立小友小学校 4年生
11月 13日	陸前高田市立高田小学校 5年生	11月 27日	陸前高田市立広田小学校 6年生
11月 15日	陸前高田市立米崎小学校 6年生	2025年 3月 7日	陸前高田市立気仙小学校 6年生
11月 21日	新潟市立内野中学校 2年生	3月 18日	岩手県立大東高等学校 2年生

義援金募集

令和 6 年能登半島豪雨災害義援金募集				令和 7 年大船渡市大規模林野火災義援金			
発 生	2024年 9月 21日			発 生	2025年 2月 26日		
実 施 期 間	2024年 9月 26日 ~ 10月 31日			実 施 期 間	2025年 2月 28日 ~ 5月 7日		
募 金 総 額	88,958円			募 金 総 額	1,135,405円		
送 金 先	石川県「石川県令和 6 年能登豪雨災害義援金」			送 金 先	大船渡市災害義援金(林野火災)口座		

募金活動にご協力いただいた店舗一覧 (50音順、敬称略)

伊東文具店	クリーニング及川	食堂カフェ仙華園 × クレープ仙葉園
おかし工房 木村屋	軽食喫茶 umineco	スナックみそら
菓子司 東海堂	SAKE's BAR 酒場 THE 陸丸	中華食堂 熊谷
Cafe レストラン クローバー	産直はまなす 陸前高田	一般社団法人 トナリノ
カレーとてづくりおやつ フライパン	ジャズ喫茶 h. イマジン	井屋 さかぐち
川の駅 産直よこた	ジャズタイム ジョニー	やきにく 萬々事々
キャピタルホテル 1000 株式会社	旬味旬彩 鮎まつ田	夢の樹マルシェ
熊谷珈琲店	昇龍厨房 四海楼	ちいさな産直・ちいさな雑貨屋 Laugh
		陸前高田 発酵パーク CAMOCY

事業報告 政策提言事業

文・岡本 翔馬



政策提言事業は桜並木を防災・減災だけでなく、桜をまちづくりの一部として活用してもらえよう提言し、実施していくことを目的とした事業です。東日本大震災や津波、そして復興といった言葉ではないもので、陸前高田市を知り訪れる人が少しずつ増えてほしいと願っています。桜を育てていくなかで徐々に文化となり、桜と街と人が支えあうような未来を目指しています。

植樹事業とも連動しますが、陸前高田市をはじめとした行政が管理・保有する土地への植樹を継続的に行っています。今年度は17本の植樹を行い、行政所有地への累計は351本となりました。2022年度から開始した3月11日や月命日、満開時に合わせて実施している浄土寺のライトアップも4年目を迎えました。2025年3月から4月には新聞やテレビで多く取り上げられ、今年の春は例年以上の人出を感じることができました。震災を後世に伝える役割はもちろんのこと、陸前高田の春を彩る風物詩としても広く認知が進んでいることを実感しています。

一方で、「さくらの杜プロジェクト陸前高田協議会」が本格的に活動を開始して1年を迎えました。この取り組みは、東日本大震災だけに依らない観光やまちづくりを目指して、陸前高田市内の関係事業者を中心に進められています。市役所や関係行政機関に加え、多くの市民、そして全国の支援者の参加を得ながら、東北随一の名所「さくらの杜」を作り出し、地域への誇りや愛着の醸成、交流人口の拡大、持続的な地域発展を目標としています。

同協議会との目的や植樹地の棲み分けをしつつ、当団体として桜の品種選定や植樹時のサポート、全国の皆さまの共感を力に変えてきたノウハウの提供などを通じて協議会に協力しています。約3000本を目標とした全体計画も徐々に進んでおり、復興祈念公園を含む中心市街地の低地部や気仙町今泉地区を主な植樹地として計画が策定されつつあります。今年度中には概ね計画が整う見込みです。

また計画づくりと並行して、2024年11月と2025年3月に植樹会を実施しました。協議会員や市内外の住民、3月は市内小中学校の卒業生とその保護者、合計142名と60本の桜を植樹しました。協議会の公式ホームページも公開され、近くSNSの運用も開始される予定です。ご興味を持っていただける方はこちらも是非フォローしていただければ幸いです。

引き続き、震災の風化防止を目的とした「伝承」の側面と、多くの人が訪れたいと思えるような「まちづくり」の側面、その両面のバランスをとりながら、原点を忘れることなく地域に貢献していきます。

さくらの杜プロジェクト 陸前高田協議会 発起団体一覧

一般社団法人陸前高田市観光物産協会
陸前高田商工会
陸前高田地域振興株式会社
陸前高田企画株式会社
陸前高田ほんまる株式会社
一般社団法人マルゴト陸前高田
陸前高田しみんエネルギー株式会社
ワタミオーガニックランド株式会社
ゴールデンビーカン株式会社
株式会社高田松原
株式会社醸
株式会社八木澤商店
株式会社かわむら
芳樹園
特定非営利活動法人桜ライン 311



ライトアップ 実施日程

東日本大震災の命日（3月10日～12日）、月命日（毎月11日）、桜の満開時（4月4日～6日）にライトアップを実施 ※3月～9月は18時～21時の点灯、10月～2月は17時～21時の点灯



01、02、03、04、05、06）主催「さくらの杜プロジェクト陸前高田協議会」の植樹会（2024年11月、2025年3月実施）
07）高田松原津波復興祈念公園 グループ代表者会議 08）テレビ取材を受ける代表理事岡本
09）夏のライトアップ 10）3月11日にライトアップした桜

事務局報告

文・佐々木正也



組織基盤強化と桜の保全に向けた 取り組みについて

年間を通して全箇所確認（草刈・桜のメンテナンス）に多くの時間を費やしているものの、フルタイムスタッフのみでは年内にすべてを終えることが困難となり、管理作業における人手不足は大きな課題となっています。特に草刈作業は、地域の景観を維持するというまちづくりの観点からも重要です。適切なタイミングで行わなければ、ツルが苗木に絡まったり、雑草や竹に覆われて生育を著しく妨げることとなります。

この状況を受け、植樹事業部では、認定NPO法人日本NPOセンターさまの助成金を活用し、組織基盤の強化を図りました。

1つ目の取り組みは、管理作業専任スタッフの増員です。まずパートスタッフ4名の採用により、フルタイムスタッフは植樹地の確保や管理チームのマネジメントに集中できるようになりました。

採用したパートスタッフは、単に管理作業を行うだけでなく、場合によっては地域の方との窓口となる役割を担うこともあります。そのため「管理を目的とせず、震災伝承を目的とする」というビジョンをフルタイムスタッフと共有できるよう、研修や定期的なミーティングを重ねてきました。

前期の目標として掲げていた「防災の団体」という意識の共有や植樹現場の把握については、計画通りに進んでいると感じています。



引き続き進捗状況を意識しながら、パートスタッフの育成と管理者自身のスキル向上を図ってまいります。

また6月より、陸前高田市ユニバーサル就労支援センターさまと連携し、働きづらさを抱える方2名の受け入れを開始しました。一般就労が難しい状況にある方にも、やりがいを持って働ける職場づくりを目指し、組織基盤の強化と業務の効率化を進めてまいります。

2つ目の取り組みとして、震災を知らない若年層への伝承と、津波到達点の再確認および防災意識の向上につなげることを目的に（公社）3.11メモリアルネットワークさまの助成金を活用し、市内の小学校全8校を対象に、震災講話と植樹会を企画しました。

現時点では、すべての学校と開催に向けた日程調整を進めております。震災の記憶のない世代に対しても、それを遠い過去の話としてではなく、これから起こりうる災害に備えられる人が育ってくれることを願い、今後も取り組んでまいります。

※ ユニバーサル就労とは・・・

精神疾患や家族の介護看護、ひきこもりなど、様々な理由で一般的な就労が困難な方に対して、時短就労や不定期就労など、その人の状況に合わせて就労していただく取り組みです。

事務局報告

文・伊勢友紀



桜守の育成と地域参加による 桜ラインの保全に向けて

今年度も陸前高田市の「まちづくり団体活動補助金」を活用し、剪定体験と草木染め講座を開催いたしました。

この講座は、長期的な管理体制の構築と市民参加の促進を目的に、2022年より継続して実施しているものです。剪定枝の利活用にとどまらず、参加者同士の交流や地域コミュニティの形成にも効果があり、リピーターの多い人気講座となっています。

今年度は新規参加者の獲得にも力を入れ、市内の店舗・施設へのチラシ配布や個人への直接の声かけを強化。その結果、全4回実施した草木染め講座には延べ44名の方にご参加いただき、そのうち28名が新たに参加されました。うち2名の方が、当団体の活動趣旨に強く共感され、植

樹会や日常の管理作業への参加を申し出てくださいました。これは、年々増大する維持管理作業の課題を解決するための「桜守（さくらもり）」体制作りに向けた大きな一歩となりましたが、基盤整備までは至らず、次年度への課題が残りました。

今後の展望として、市内8町に数名ずつの「桜守」を配置し、桜ライン2,370本を地域全体で見守る体制の構築を目指しています。スタッフだけでは日常的な巡回や緊急時対応が難しいため、台風後の状況確認や異常などの早期発見につながる「見回り協力者」の育成から始め、将来的には簡易な管理・手入れも担っていただけるよう段階的に進めていく予定です。

また、いわて生活協同組合さまの助成金を活用し、陸前高田市立高田第一中学校3年生47名を対象に、学校向けの草木染め講座も実施しました。今回は、小学生時代に自分たちが植樹した桜の剪定枝を染料として活用。植樹当時を振り返りながら、震災伝承のための桜を見守る体験と、廃棄枝から美しい桜色のハンカチを染め上げる過程を通して、より深い学びと愛着が育まれました。



今後は市内すべての中学校での実施を目指しており、次回は高田東中学校での開催を予定しています。

さらに今年度は初めての試みとして、桜の開花時期にあわせた「桜ライン散策会」を実施しました。

「桜ラインの桜がどこにあるかわからない」「咲いた時に見たい」という市民の声に応える形で企画し、定員を超える13名のご参加をいただきました。

高田町の中心市街地、気仙町今泉地区を中心に徒歩で案内し、高田町から気仙町までは、陸前高田の新たな観光資源である小型の電気自動車「モビタ」に乗って移動。復興の歩みとともに津波到達点の桜を巡り、参加者がそれぞれの思いを語り合う場面も見られ、桜が「震災を語

るきっかけ」となる未来への希望を感じるひとときとなりました。今後は他の町の主要な桜ラインも案内できるよう広げていく予定ですが、モビタは乗車定員や運行ルートに限りがあるため、より多くの方が参加できる仕組みや移動手段の工夫が課題です。

草木染め講座をはじめとするこれらの取り組みは、市民が世代を超えて当団体に関わる入口となっており、今後も継続的に展開することで、地域全体で桜を守り育てていく仕組みづくりへとつなげてまいります。

※ 助成金詳細

陸前高田市「まちづくり団体活動補助金」

いわて生活協同組合「被災地支援活動助成金」



事務局報告

文・太田 海



つながり、深まる。 大阪マラソン2年目の挑戦

当団体の活動は、陸前高田市での植樹会や苗木の手入れを中心とした参加が主でしたが、遠方の方からは「行きたいけど距離がネックで…」といった声も多く寄せられていました。

そうした課題に対し、現地以外でも気軽に参加できる取り組みとして、当団体は2024年から大阪マラソンチャリティプログラムに参加。2年目となる2025年大会（2025年2月24日（月・祝）開催）では、参加ランナー数・応援団参加数ともに大幅に増加し、関西圏での支援の広がりを実感する機会となりました。

当団体の活動に賛同しチャリティランナーと

して出走いただいた方が18名（前年比11名増）。そのうち8名は今回が初めてのフルマラソン挑戦で、完走者は16名でした。残念ながら1名は大会直前にご逝去されましたが、その方の意志や想いを背負い、フィニッシュ地点まで足を進めることができました。参加者の内訳を見ると、大阪府や奈良県などの近畿地方を中心に、東京都や山口県、さらには台湾からの参加もあり、年齢層も20代から60代と幅広い方々にご参加いただきました。

沿道では、「桜ライン311応援団」として約80名が参加。前年の51名から大きく増え、大阪市内の9か所に分かれてピンクの法被と竹バチを手に声援を送りました。

当日は小雪舞う天候の中、応援団の元気な声と熱量に背中を押されたというランナーの声も多く、「走ってるときも手を振り合い、一緒にゴールを目指す仲間意識が持ててとても良かった」「会ったことのある人たちが声をかけてくれたのが何より嬉しかった」との感想が寄せられました。

チャリティランナー制度の仕組み

大阪マラソン組織委員会

ランナー枠数申込・割当

登録・エントリー

チャリティパートナー

チャリティランナー

寄附者

桜ライン311

寄附

応援・サポート



7万円以上の寄附が集まると出走権獲得

寄附

よびかけ



チャリティランナー 18名
（内、スタッフ 2人）
桜ライン311応援団合 80人
（内、西日本在住者 79人）
準備期間 8ヶ月

寄附額 2,229,024円

大阪マラソン2025
報告ページ



大阪マラソン2026
詳細



コース図



参加者が増えたことに伴い、新たな試みも複数導入しました。

まず、練習会は昨年の1回から2回へと増やしました。12月に開催した1回目にはプロトレーナーを招き、ストレッチやランニングフォームの基礎指導を受けました。マラソン初心者でも安心して挑めるよう、身体づくりから当日までをサポートする体制を整えました。

2024年大会中、「ランナーを見つけられなかった」「応援団がどこにいるか分からなかった」といった反省点を受けて、チャリティランナー専用のオリジナルユニフォームも作成しました。同じユニフォームを身につけることで、ランナー同士の一体感や団体としての認知度向上にもつながりました。

また、ランナーと応援団の事前顔合わせや配

置図の共有などを強化。その一環として、大会前日の決起会を初開催し、目標や意気込みを語り合う場を設けました。

大会終了後には、慰労会を開催。完走をたたえ合い、応援への感謝を伝えるとともに、当日の様子を写真スライドで振り返るなど、温かな交流の場となりました。参加者からは「応援団に直接お礼を言えてよかった」「一体感があって、来年もまた走りたくなった」との声も多く、ランナー・応援団双方、次回に向けモチベーション向上につながったと感じています。

最後になりましたが、大阪マラソン2025にご参加、ご支援くださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。来年度も、さらに多くの方と想いをつなぐ挑戦ができるよう準備を進めてまいります。

毎月定額寄附制度 マンスリーサポーター

桜ライン311では、“桜の育て親”になってくれる方を募集しています。

マンスリーサポーターは、クレジットカードを使った寄附制度です。毎月、自分で決めた金額が自動で引き落とされるシステムのため、簡単に継続的な寄附ができるようになっています。

サポーターの方には、サポーター限定の桜ライン311ニュースレター（年2回）と、活動報告書（年1回）をお届けしています。変わりゆく陸前高田のまちと、桜ライン311の活動が身近に感じられる、情報満載の内容です。

また、特典としてあなただけのオリジナル会員証を発行しています。

1日 **100円** で
できること
(3,000円/月)



桜の苗木1本(3mサイズ)を植樹し、1年間守ることができます。

1日 **200円** で
できること
(6,000円/月)



学校植樹会を1回開催することができます。(3本植樹の場合) ※金額は任意での設定も可能です。

お手続きはインターネットからとなります

<https://www.sakura-line311.org/supporter>



- いただいたご寄附は上記内容だけでなく、苗木育成管理などの植樹事業や、講演を含む普及・啓発事業など、団体の事業運営のために使用いたします。
- 認定NPO法人制度に伴い、マンスリーサポーターは税控除の対象となります。(最大50%の減税対象)ご寄附の領収書は、毎年1月、前年の1月から12月までの期間を対象としてまとめ、年1回発行いたします。
- マンスリーサポーターの方のみ、個人のお名前を年間の活動報告書に掲載させていただきます。(希望者のみ)
- 一般のご寄附は、口座振込等にて承っております。詳しくはHPをご覧ください、事務局までお問い合わせください。

マンスリーサポーター

皆さまのあたたかい支えがあり第14期も活動を継続することができました。心より感謝申し上げます。

- | | | | |
|-----------|------------------------------|--------------|------------------|
| ・佐々木 信秋 | ・岩田 達明 | ・かどさか | ・福岡 千代子 |
| ・栃木 由香 | ・吉原 隆成 | ・小原 仁 | ・細田 伸之助 |
| ・矢口 悦子 | ・天田 輔 | ・竹嶋 美紀 | ・株式会社 タイム缶詰 吉田和生 |
| ・藤本 大祐 | ・北村 規子 | ・山神 孝志 | ・石黒 裕次郎 |
| ・金澤 正浩 | ・内藤 宏章 | ・近藤 栄(さくらFM) | ・竹松 友子(加納) |
| ・及川 登美江 | ・阪上 浩 | ・岩崎 亘典 | ・梅原 昌宏 |
| ・森川 千恵 | ・榎原 由紀子 | ・白田 佳子 | ・クシマ モモヨ |
| ・鈴木 正子 | ・木村鉄筋工業 株式会社 | ・平出 眞 | ・永山 恵子 |
| ・小針 光雄 | ・信昭田加 | ・須賀 信平 | ・山崎 哲哉 |
| ・土山 隆宏・明代 | ・株式会社 麵食 代表取締役社長 中原誠 | ・小山 賢太郎 | ・後藤 良平 |
| ・笹野 絹代 | ・kazue omoto | ・堀崎 薫 | ・岡田 良寛(りょうかん) |
| ・鈴木 佐知子 | ・浅葉 正美 | ・篠宮 武 | ・生方 由紀子 |
| ・岩崎 政孝 | ・石川 洋一 | ・今井 洋祐 | ・五味 潤一彦 |
| ・原田 亮 | ・鈴木自動車 株式会社 | ・下郷 悟 | ・山崎 耕太郎 |
| ・金光 結香 | ・音楽室さくら咲 la | ・やっさん | ・織デザイン 岡本かおり |
| ・尾島 奈緒子 | ・水澤 千秋 | ・佐々木 雄太 | ・しげさん |
| ・原田 聡子 | ・塩田 哲男 | ・廣野 孝男 | ・西和賀町立沢内中学校 |
| ・齊藤 宏樹 | ・横山 秀 | ・東 眞弓 | |
| ・三谷 麻紀 | ・小高 英雄 | ・福田 美知子 | |
| ・荒川 夏実 | ・株式会社 けいろん
代表取締役社長 長谷部蔵之進 | ・山科 威朗 | |
| ・高石 祐次 | | ・柳澤 浩子 | |
| ・真下 行男 | | ・中村 顕子 | |

※順不同。敬称略。

※第14期(2024/7/1～2025/6/30)に、任意でご支援いただいた方を掲載しています。未掲載の方で、来期の掲載をご希望の方は、メールにてご連絡ください。



愛知県 名古屋市
浅井 祐司 様

桜ライン311の活動を知ったのは震災遺構ツアーがきっかけでした。“陸前高田のために何かしたい”と思っていた私にとっても、津波避難の目安となる桜を植える取り組みは、未来を守る大切な行動です。この活動が広がるように、植樹会の話を周囲に伝え、「一緒に行こう」と誘っています。これからも活動が継続されることを願い、心から応援しています。



宮城県 仙台市
佐々木 信秋 様

私は仕事から、NPOや市民活動など、多くの関わりがありますが、桜ライン311は設立からこれまでずっと丁寧な活動をされており、素晴らしいな・・・と常々思っています。震災から年月が経過するなかで、悔しさや教訓を後世に伝えること、その難しさは日々増えていると思いますが、これからも変わらず丁寧な活動に期待し、微力ですが応援し続けたいと思います。

支援者さまからの声

活動を支えてくださる皆さま



陸前高田市長
佐々木 拓 様

小学生だった頃、通学路の石段の最上段には「低いところに住家建てるな」という石碑があったのを覚えています。「桜ライン」、東日本大震災の記憶を後世の人に伝えていく、陸前高田にとって、とても大切なプロジェクトです。



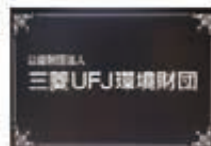
株式会社 ONE COMPATH
代表取締役社長 CEO 早川 礼 様

「桜ライン311 応援マップ」の運営を通じて、植樹された桜の記録を地図上で可視化する活動を行っています。震災の記憶を次世代に継承する大切な取り組みだと感じています。地図上に広がる桜が、未来への希望の象徴となることを願い、今後も技術面からサポートを続けてまいります。

キャピタルホテル1000 株式会社
代表取締役社長 松田 修一 様



「1年後も100年後も、大切な人とずっと。」震災から14年半が経ちました。あの時、未曾有の災害を経験した私たちには、自然の怖さとその脅威から身を守る術を未来に伝承すべき使命があります。今改めて強くそう思います。津波の記憶を後世に伝え残そうと、多くの方々が共感して植えられた桜の数が2,370本(25年3月現在)。私もその使命を果たして参りたいと思います。



公益財団法人 三菱UFJ環境財団 様

桜ライン311の活動は17,000本の桜並木実現が一つの目標ではありますが、震災後に生まれた子供達をはじめ、それに関わる体験の積み重ねそのものに大きな価値があると考えております。当財団は1971年の設立以来、半世紀を超え全国各地で植樹活動支援を継続しておりますが、この活動についても末永く支援をして参りたいと思っております。



中部電力株式会社 広報部
エネルギー広報グループ長 山内 啓彰 様

震災の記憶と教訓を伝える桜ライン311様の活動に賛同し、2013年度から植樹や活動の支援をさせていただいております。また、桜ライン311様には「子ども減災・防災講座」の講師として名古屋にお越しいただき、親子で防災や減災について考える機会をご提供いただきました。今後も微力ながら活動を応援させていただきます。



大阪よどがわ市民生活協同組合 様

2014年以降、桜の植樹に大阪から参加させていただき、現地の空気に触れながら命の尊さを実感しました。この経験は職員にとっても大きな学びとなり、防災や地域とのつながりを考える機会になっています。皆さまの活動が多くの人々の心に届き、未来へとつながっていくことを願い、これからも微力ながら応援してまいります。



全トヨタ販売労働組合連合会(CND)
中央執行委員長 林 耕右 様

CNDはトヨタ系販社や関連企業180社以上の労働組合が加盟する組織です。労働組合の大切にする互助の精神のもと、発災直後から桜ライン311募金活動を始めました。働く仲間とその家族の幸せを目的とする私たちにとって、この震災での学びを風化させないことも重要な活動です。桜ライン311活動の更なる普及を祈念しています。



株式会社グリーバル
代表取締役社長 村木 孝 様

「グリーバル」という社名は、緑の価値を追い求めたいという社員たちの気持ちを表したもので、「Green Value」を社名にしたものです。「桜ライン311」様の活動を知り、これも緑の価値と共感し、「頑張れニッポン!」の願いも込め、毎年2本の桜の苗木を寄付させて頂いています。社員一同応援していますので頑張ってください!



東北さくらライブプロジェクト
共同代表 澤向 美希 様

今年は、2年ぶりとなる小田和正さん全国ツアーの宮城公演にて桜ライン311さんと合同のブース出展をさせていただきました。小田さんファンのみなさまにも、桜ライン311の意義深い活動が浸透していることを実感します。桜の植樹活動ともに、防災・減災への備えに関しても、我々も一緒に伝えていきたいと思っています。



和太鼓 Do-Da 様

毎年東日本大震災復興支援ライブを行い、集まった募金を桜ライン311さんに持って行っています。最近では大阪マラソンでもランナー & 応援団として参加させていただいてます。いつも温かく迎えてくれるスタッフさんが私たちは大好きなんです。未来のために果てしないゴールに向かってコツコツ活動する桜ラインさんを応援し続けます!



名城大学
経済学部教授 渋井 康弘 様

「悔しさ」を「嬉しさ」に「私たちは悔しいんです。」桜ライン311のパンフレットにある言葉です。植樹活動の中で多くの人々が出会い、絆が生まれました。大切な人が増えるほど、その人たちを失わぬよう、なすべきことをせねばと思います。いつか誰かが言うでしょう。「私たちは嬉しいんです。昔々の人たちが、桜を植えてくれたので、私たちは助かりました。」



陸前高田市立横田小学校
校長 佐々木 寿子 様

今年度3年生が桜ライン散策会の体験をさせていただきました。津波到達地点である桜ラインを巡りながら、津波の様子やねらいを聞き、子ども達は「自分の身を守ることの大切さ」を実感していました。また、山間にある横田町を飛び出して、市内を巡ったことも大変有意義でした。今後も活動に参加させていただきたいと思います。



香川県 高松市
稲谷 早苗 様

桜ライン311の活動のことを知ってから、平成3年3月11日に亡くなった父の供養で寄付をしています。四国からは遠くて植樹には行けないので、私なりに「できる形」で参加させていただき嬉しく思っています。これからも苗木の寄付は続けて行きます。後期高齢者になりましたが、いつか寄付した桜が咲いているのを見るのが夢です。



京都府 京都市
四方 覚子 様

桜ライン311と本格的に繋がったのは2021年。SDGsの実践として、道徳教科書掲載の桜ライン311を担当学年でチャリ本支援したことからです。そこから個人的にも夏の手入れと、秋の植樹会に参加するようになりました。身体が動く間は陸前高田に通い、いつかは自分が植えた桜の満開の姿を見届けたいと思います。



埼玉県 入間郡
頑張っぺ!とうほく元気プロジェクト 永山 恵子 様

私達の活動はとても小さなものですが、何度かの陸前高田訪問で桜ラインの皆さんや高田の人々と接し、たくさんの気付きや学び、そして喜びを得ることが出来たことは感謝!です。これからも「弛まず倦まず」...ヨロヨロしながらも歩んでいけたらと思います。桜ライン311そして私... がんばっぺ!

支援者さまからの声

地元で活動を支えてくださる皆さま
地権者の皆さま



高田町 地元協力者
佐藤 新三郎 様

かさ上げ地に住む者として、所有者が管理しない空き地や道端にハギやススキなどが繁茂し三輪車の孫が見えなくなる事に危険を感じています。桜ライン311では、植樹した山際の土地をきれいに草刈り。感謝しております。今後とも皆様のご協力をいただきながら、意義深い植樹活動を継続・拡大されますよう祈念申し上げます。



大船渡市 地元参加者
熊谷 淳 様

震災の年から埼玉より年に3～4回、大船渡の実家に帰省しながら、大船渡や陸前高田でのボランティア活動を続けてまいりました。「桜ライン311」の活動には2017年から参加し、今年で8年目となります。震災の記憶を後世に伝え、今を生きる人々、そしてこれから生まれてくる人々のかけがえない命を守る——その大切な活動であることを心に刻み、今後もボランティアを続けていきたいと考えています。



高田町 地権者
鈴木 康文 様

毎年春になると桜並木に花が咲き、東日本大震災の津波到達地点を思い出させてくれる。何度となく震災（津波）を経験し、忘れ去られて行っている中で、単なる記念碑でなく17,000本の桜を植えることにより数十年、数百年に渡り震災の記憶を伝える桜ライン311の活動は素晴らしいものだと思います。今後もこの活動が末永く続けていくことを応援しています。



高田町 地権者
新沼 慶子 様

震災から1か月余り経った4月末、他県に住む姉が駆けつけてくれ、一緒に町内を見て回りました。ガレキの山の中、高田一中付近で満開の桜を目にした瞬間、思わず2人で「わあ!」と声を上げ、感動しました。桜ライン311の活動を通じ、いつか町が花でいっぱいになり、元気なまちとなることを願い、応援しています。



小友町 地権者
戸羽 一子 様

近所の桜が姿を消すことを聞き、毎年春の訪れを知らせ豊かにしていたことに心の淋しさを感じ、跡絶えてはならない、では我家で桜を!そしてこの「桜ライン」と共に「心のライン」も消えることなくと思い、桜染が彩る喜びを感じながら決定しました。熱心な各ボランティア、スタッフの方々、そして地権者、三者一体が防災意識高揚と命の尊さをも繋げ広がることを願っております。



米崎町 地権者
株式会社カネマン 菅原 翔 様

震災の深い傷跡が残る中、皆様が植えてくださった桜は、復興のシンボルとして未来へと繋がる希望となるでしょう。植樹するだけでなく生育状況や環境整備にまでスタッフの方々にご尽力いただき、我が家の桜も根付いており満開が楽しみです。17,000本の美しい桜並木が被災地を彩ることを願っております。

会報誌

2024年 7月 1日 認定特定非営利活動法人 日本NPOセンター
9月17日 リコージャパン株式会社
9月27日 広眺ヶ丘サロン・三々五々
10月 7日 学校法人 名城大学
2025年 1月20日 公益社団法人 国土緑化推進機構
1月30日 一般社団法人 全国海岸協会
2月22日 一般社団法人 ざぶん環境・文化プロジェクト
3月 1日 東北さくらライブプロジェクト
3月25日 岩手県NPO活動交流センター
4月25日 中部電力株式会社

新聞

2024年 9月26日 岩手日報社
9月29日 東海新報社
11月13日 東海新報社
11月20日 東海新報社
11月22日 岩手日報社
11月30日 東海新報社
12月 1日 東海新報社
12月5日 東海新報社
2025年 1月 1日 岩手日報社
1月 9日 琉球新報社
1月16日 東海新報社
2月11日 沼津朝日新聞
2月17日 岩手日報社
3月 6日 東海新報社
3月 8日 東海新報社
3月 9日 東海新報社
3月12日 東海新報社
3月12日 岩手日報社
3月16日 岩手日報社
3月18日 岩手日報社
3月28日 東海新報社
4月 6日 東海新報社
4月 6日 岩手日報社
4月12日 東海新報社
4月12日 東海新報社
4月13日 東海新報社
4月13日 岩手日報社
4月20日 東海新報社
4月22日 東海新報社
4月29日 東海新報社
6月 4日 東海新報社
6月11日 河北新報社

テレビ

2024年 8月31日 日本放送協会
11月11日 岩手朝日テレビ
11月17日 テレビ岩手
11月17日 IBC岩手放送
12月 6日 テレビ岩手
12月13日 日本放送協会
2025年 3月 7日 日本放送協会
3月11日 東京メトロポリタンテレビジョン
3月11日 テレビ岩手
4月 8日 テレビ岩手
4月11日 岩手めんこいテレビ
4月12日 岩手朝日テレビ
6月 2日 岩手朝日テレビ

Web (YouTube)

2024年 9月17日 リコージャパン株式会社
2025年 2月17日 陸前高田市立広田小学校×
一般社団法人 陸前高田市観光物産協会
3月31日 中部電力株式会社
4月 1日 中部電力株式会社

ラジオ

2025年 3月 1日 株式会社ベイエフエム

web

2024年 7月16日 大阪マラソン組織委員会
8月 1日 トレンドマイクロ株式会社
8月20日 大阪マラソン組織委員会
9月11日 レバレッジズ株式会社
12月10日 UAゼンセン
12月24日 伸栄商事株式会社
2025年 2月 7日 本気メディア株式会社
2月17日 公益社団法人 全国漁港漁場協会
2月18日 学校法人 名城大学
2月20日 Diptyque Japan株式会社
2月20日 港湾海岸防災協議会
3月 3日 復興庁
3月 3日 大阪よどがわ市民生活協同組合
3月10日 本気メディア株式会社
3月10日 LINEヤフー株式会社
3月10日 特定非営利活動法人 Dialogue for People
3月12日 株式会社 ジェイ・キャスト
3月18日 本気メディア株式会社
3月18日 LINEヤフー株式会社
4月 1日 一般社団法人 陸前高田市観光物産協会
4月 8日 伸栄商事株式会社
4月10日 テレビ岩手(アナウンサーブログ)
4月12日 株式会社フロムゼロ(メールマガジン)
4月17日 UAゼンセン

雑誌・その他

2024年10月24日 リンクタイズ株式会社「ForbesJAPAN 12月号」
10月26日 陸前高田市立高田第一中学校「文化祭 草木染め作品展」
11月25日 株式会社教育公論社「週刊教育資料 No.1771」
12月21日 一般社団法人 ざぶん環境・文化プロジェクト「ざぶん賞&ざぶんSDGs大賞2024in栃木県」
2025年 2月17日 陸前高田市立広田小学校「みちのく潮風トレイル 陸前高田市広田半島ルート2024」
2月22日 一般社団法人 ざぶん環境・文化プロジェクト「ざぶん賞&ざぶんSDGs大賞2024in石川県」
3月20日 中部電力株式会社「でんきの科学館特設展示」

年間活動実績

2024年 7月 1日～2025年 6月 30日

2024	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「創業17周年キャンペーン」(7/6～8/6)
7	講演	全トヨタ販売労働組合連合会「CND第19期フレッシューズセミナー」
	活動	大阪マラソン2025「チャリティランナー募集」(7/23～10/16)
8	講演	名城大学ボランティア協議会「はまらいんや大島 震災復興学習」
	活動	桜のお手入れ会 募集終了
9	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「夏→秋 SUMMER→AUTUMN CAMPAIGN」(9/1～9/30)
	活動	陸前高田市立高田第一中学校 職場体験受け入れ(2日間)
	講演	名古屋市立明德小学校「東日本大震災から学ぶ防災減災」
	講演	名城大学 経済学部演習ゼミナール「震災復興学習」
	講演	広眺ケ丘サロン・三々五々「これからの大災害に備える」
	講演	新潟市立内野中学校「桜ライン311について学ぶ」※オンライン
	活動	令和6年能登豪雨災害義援金 開始
10	講演	岩手県立住田高等学校「地域創造学」
	講演	三日堀自治公民館「高田松原復興祈念公園内の震災語り部ガイド」
	活動	第10回桜の草木染め講座
	講演	陸前高田NPO協会「人・金・想いを味方にする方法～桜ライン311代表岡本氏に聞く～」
	活動	令和6年能登豪雨災害義援金 終了
	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「読書の秋キャンペーン」(11/1～11/9)
	活動	TikTok運用開始
	講演	陸前高田市立高田小学校 震災復興学習+学校植樹会(4年生)
	講演	陸前高田市立米崎小学校 植樹会事前講演会
	活動	令和6年能登豪雨災害義援金 送金
	講演	陸前高田市立高田小学校 学校植樹会(5年生)
	講演	陸前高田市立米崎小学校 学校植樹会
	講演	秋の植樹会(個別型)開始(11/16～12/9)
11	講演	武田薬品工業株式会社「防災減災危機管理」
	講演	武田薬品工業株式会社「震災復興学習」
	活動	大阪マラソン2025「桜ランナー応援団」募集(11/20～1/31)
	講演	新潟市立内野中学校 東北修学旅行桜プロジェクト(講演会+植樹会)
	講演	UAゼンセン「震災復興講演」
	講演	生活協同組合おおさかバルコープ「震災復興学習」
	講演	陸前高田市立小友小学校 震災復興学習+学校植樹会
	講演	陸前高田市立広田小学校 震災復興学習+学校植樹会
	講演	水産庁「第28回海岸シンポジウム」
	講演	秋の植樹会(集合型)+講演会開催
12	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「12月は寄付月間。」(12/1～12/31)
	講演	特定非営利活動法人いわて連携復興センター 「寄付募集のススメ～多様な財源から寄付に着目し、戦略を考えよう～」
	講演	理事植樹会
	活動	大阪マラソン2025 チャリティランナー練習会開催(1回目)
2025	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「初寄付キャンペーン」開催(1/3～1/13)
1	活動	株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」更新



2025	活動	大阪マラソン2025 チャリティランナー練習会開催(2回目)
1	講演	中部電力株式会社×認定特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会「子ども防災講座」
	活動	第11回桜の草木染め講座
	活動	キャリアデザイン・メンタルサポート株式会社 「陸前高田・桜ライン311写真展@チャトラ『プレイス』」(2/6～2/17)
	活動	株式会社チャトラコーヒー「桜ライン311 オリジナルブレンド ドリップバック」販売(2/6～2/17)
	講演	名城大学ボランティア協議会「はまらいんや大島 震災復興学習」
2	活動	第12回桜の草木染め講座
	活動	2024年度さぶんSDGs大賞「審査員特別賞・地域文化SDGs賞」受賞
	活動	大阪マラソン2025EXPOブース出展(2日間)
	活動	大阪マラソン2025 チャリティパートナーとして参加
	活動	令和7年大船渡市大規模林野火災義援金 開始
	活動	有限会社ソラ「桜並木を繋げるドネーションネックレス」販売(2/28～4/13)
	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「寄付してみよう。Let's try a donation.」(3/1～3/31)
	講演	陸前高田市立気仙小学校 植樹会事前講演会
	活動	Diptyque Japan株式会社「限定版 クラシックキャンドル Fleur de Cerisier」販売(期間限定)
	講演	陸前高田市立気仙小学校 学校植樹会
	講演	春の植樹会(個別型)開始(3/8～3/29)
	活動	日清丸紅飼料株式会社「ハーブ豚×桜ライン311 東北に桜を」(約1ヶ月間)
3	活動	浄土寺(高田町)の桜 東日本大震災命日ライトアップ実施(3日間)
	講演	伸栄商事株式会社「17,000本の桜に託す願い」
	講演	春の植樹会(集合型)+講演会開催
	講演	岩手県立大東高等学校 震災復興学習+学校植樹会
	講演	Diptyque Japan株式会社「防災・減災について」
	講演	生活協同組合おおさかバルコープ「震災復興学習」
	講演	UAゼンセン「震災復興講演」
	講演	理事植樹会
	活動	浄土寺(高田町)の桜 満開ライトアップ実施(3日間)
	活動	令和7年大船渡市大規模林野火災義援金 送金(1回目)
	活動	第1回桜の散策会
4	講演	陸前高田市立横田小学校 桜の散策会
	活動	株式会社ONE COMPATH「桜ライン311プロジェクト応援マップ」更新
	活動	第2回桜の散策会
	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「ゴールデンウィークキャンペーン」(4/26～5/6)
	活動	令和7年大船渡市大規模林野火災義援金 終了
5	活動	令和7年大船渡市大規模林野火災義援金 送金(2回目)
	講演	陸前高田市立高田第一中学校「震災学習とSDGs」
	活動	小田和正ツアー2025 宮城公演 東北さくらライブプロジェクト主催によるブース出展(2日間)
	活動	桜のお手入れ会 募集開始
	活動	株式会社バリューブックス チャリボン「梅雨なので Rainy Season Campaign2025」(6/1～6/30)
6	活動	陸前高田市立高田第一中学校「桜の草木染め講座」
	講演	花巻市立太田小学校「修学旅行 震災学習」
	講演	国立大学法人岩手大学「地域おこし論」

※毎月、11日(月命日)は浄土寺(高田町)のライトアップを実施



支援者法人及び団体

皆さまのあたたかい支えがあり第14期も活動を継続することができました。心より感謝申し上げます。

- AMAZAKE陸前高田製造所
- 飯田市立飯田東中学校 学友会
- 市川若宮道院
- 一般社団法人 さいわい
- 一般財団法人 ざぶん環境
・文化プロジェクト
- 一般社団法人 トナリノ
- 一般社団法人 陸前高田市観光物産協会
- 今泉地区コミュニティ推進協議会
- 岩手県立住田高等学校
- 岩手県立大東高等学校
- 岩手県立高田松原津波復興祈念公園
管理事務所
- いわて生活協同組合
- 大倉山うたごえサロン
- 大阪教育大学 FILM
- おおさかバルコブこのはな区民まつり
- 大阪マラソン組織委員会事務局
- 大阪よどがわ市民生活協同組合
- 岡崎桜まつり太鼓フェスティバル
実行委員会
- おかし工房 木村屋
- おかず屋 和笑輪
- オテガミプロジェクト
- 大人のための絵本会@桑名
- オトなバンド戸田倶楽部
- 音楽室さくら咲 la
- 菓子司 東海堂
- 学校法人 名城大学
- カフェフードバー わいわい
- Café レストランクローバー
- 株式会社 アドバンスクリエイト
- 株式会社 JTB新潟支店
- 株式会社 アイ・ディ・ケイ
- 株式会社 エクロール
- 株式会社 eduedge
- 株式会社 エルベ・ブランズ

- 株式会社 グリーバル
- 株式会社 シェリール
- 株式会社 STYZ
- 株式会社 高田松原(道の駅高田松原)
- 株式会社 チャトラコーヒー
- 株式会社 テレビ岩手
- 株式会社 バリュブックス
- 株式会社 blanchotus
- 株式会社 ミチノク
- 株式会社 麵食
- 株式会社 山十伊東文具店
- 株式会社 ONE COMPATH
- KAMIKIRISALON ひみつきち
- カレーとてづくりおやつ フライパン
- 川の駅産直 よこた
- 菅久菓子店 -PatisserieKanKyu-
- 顔晴っぺ!とうほく元気プロジェクト
- 喜多方ラーメン坂内 調布店
- 木村鉄筋工業 株式会社
- キモノ里親さがし
- キャピタルホテル 1000 株式会社
- キャリアデザイン・メンタルサポート
株式会社
- 清瀬・久留米民主商工会
- gooddo 株式会社
- 熊谷珈琲店
- 熊本 Alright&大分 Babys
陸前高田アップロード店
- クリーニング及川
- 軽食喫茶 umineco
- 気仙地区広域学生奉仕団
- 公益社団法人 国土緑化推進機構
- 国立大学法人 岩手大学
- 坂部健康院
- さくら PORT・TOWN 株式会社
- 桜ライン 311 in 絆
- 桜ライン 311 陸前高田の
桜を見守る会有志

- SAKE' SBAR酒場 THE 陸丸
- 産直はまなす陸前高田
- 鳥崎 株式会社
- 市民生活協同組合 ならコープ
- 一般社団法人 プロトレ
- 社会福祉法人 松田町社会福祉協議会
- ジャズ喫茶 h.イマジン
- ジャズタイム ジョニー
- 宗教法人天理教 飯ノ上分教会
- 旬味旬彩 鮎まつ田
- JOY tertainment
- 浄土寺
- 昇龍厨房 四海楼
- 食堂カフェ 仙華園 ×クレープ仙華園
- 白藤野菜直売所
- 伸栄商事 株式会社
- 深大寺陶芸教室
- シンワ 株式会社
- 水産庁
- SUZUNE
- 2025 鈴の音ツアー !!
- スナック みそら
- フタバプロレスプロレスバー DIVA
- 生活協同組合 おおさかバルコブ
- 西武文理大学
- セブン・イレブン
陸前高田アップロード店
- セブン・イレブン 陸前高田高田高校前
- セブン・イレブン 陸前高田竹駒店
- セブン・イレブン 陸前高田馬場前店
- 全トヨタ販売労働組合連合会
- 全トヨタ労働組合連合会
- 専門学校 桑沢デザイン研究所
- 大樹生命保険 株式会社
お客さまサービス部
- 高田松原商業開発協同組合
(アパッセたかた)

- 武田薬品工業 株式会社
- 小さな草木染め工房 手楽木芸
- ちいさな産直・ちいさな雑貨屋 Laugh
- 中華食堂 熊谷
- 中部電力 株式会社
- DiptyqueJapan 株式会社
- 伝馬・おたがいさま
- 東亜建設工業 株式会社
- 東亜建設工業 株式会社 東北支店 OB
- 東京センチュリー 株式会社
- 東京屋カフェ
- 東北さくらライブプロジェクト
- 遠野市遠野町第15区自治会民生防災部
- 特定非営利活動法人
いわて連携復興センター
- 特定非営利活動法人 KIプロジェクト
- 特定非営利活動法人 日本全国志士協義会
- 特定非営利活動法人 りくカフェ
- 豊田市立小原中学校
- トヨタモビリティパーツ 株式会社
北東北統括支社
- とよとみ珈琲
- トリオシステムプランズ 株式会社
- トレンドマイクロ 株式会社
- 井屋 さかくち
- 名古屋市立明徳小学校
- 新潟さくら倶楽部
- 新潟市立内野中学校
- 西和賀町ボランティア協議会
- 西和賀町立沢内中学校
- 日清丸紅飼料 株式会社
- ニューサイクリング図書館
- ニュートンワークス 株式会社
- 認定特定非営利活動法人
日本NPOセンター
- 認定特定非営利活動法人
中部リサイクル運動市民の会

- パールミュージックプロモーション
- 箱根山テラス
- はちどりのひとしずく
- 花と緑のまち三鷹創造協会
花壇ボランティア
- 花巻市立太田小学校
- 東日本大震災伝承館いわて
TSUNAMIメモリアル
- 東日本大震災被災地復興支援
おうえんコンサート
- 被災地オテガミプロジェクト
- 日高市立高萩中学校吹奏楽部
- ヒューマン RG
- 広眺ヶ丘サロン・ミヤタ
- 福井市ボランティア連絡協議会
- Book-aid
- 復興支援入間まごころの会
- プレーメンホームベーカリー
- ペンション福田
- ほのぼのサロン
- ホンダカーズ 姫路西網干店
- 松阪市役所職員課復興支援
- MeProject
- 緑のリサイクルソーシャルエコ
プロジェクトチーム
- 名城大学ボランティア協議会
- 名鉄観光サービス労働組合
- 盛岡第三高等学校 OB
- もりつね音楽祭音の駅実行委員会
- やきにく萬々事々
- UAゼンセン
- 有限会社 上町珈琲
- 有限会社 ソラ
- 有限会社 吉野屋商会
- 悠遊の会
- 夢の樹マルシェ
- LINEヤフー 株式会社

- 陸前高田発酵パーク CAMOCY
- 陸前高田 NPO協会
- 陸前高田応援団
- 陸前高田グローバルキャンパス
- 陸前高田さくら会
- 陸前高田市広田地区
コミュニティセンター
- 陸前高田市小友地区
コミュニティセンター
- 陸前高田市コミュニティホール
- 陸前高田市総合交流センター
(夢アリーナたかた)
- 陸前高田市名古屋港がんばっぺし
実行委員会
- 陸前高田市まちなか広場交流施設
「ほんまの家」
- 陸前高田しみんエネルギー株式会社
- 陸前高田市民文化会館
(奇跡の一本松ホール)
- 陸前高田市米崎地区コミュニティ
センター(自然環境活用センター)
- 陸前高田市立小友小学校
- 陸前高田市立気仙小学校
- 陸前高田市立高田小学校
- 陸前高田市立高田第一中学校
- 陸前高田市立図書館
- 陸前高田市立広田小学校
- 陸前高田市立横田小学校
- 陸前高田市立米崎小学校
- 陸前高田地域振興 株式会社
- 陸前高田まちづくり協働センター
- リコー社会貢献クラブ・FreeWill
- リタワークス 株式会社
- リバティタウン伊勢原管理組合
「花の会」
- ローソン 陸前高田大隅店
- 和太鼓 Do-Da
- ワタミオーガニックランド 株式会社

※五十音順、敬称略。

※対象期間は第14期(2024/7/1～2025/6/30)になります。

※振込名称及び受領書宛名、参加団体名をもとに作成しています。

※法人名・団体名、アーティスト名などが対象です。個人名につきましては掲載を控えさせていただきます。

※ご寄附(協賛・苗木・他)、ご参加(植樹会・草刈会)、講演関係、地域協力店(会場・配布物設置・募金箱設置)など

チャリボンに参加しませんか？ 古本から咲く、桜があります。

書籍やDVD、ゲームソフトが 未来の命を守る桜に変わる

チャリボンとは、ご家庭や職場で読み終わった書籍やDVD、遊び終わったゲームソフトをお送りいただくことにより、社会貢献を目指すNPO・NGOの支援をすることができるサービスです。

チャリボンの仕組み



寄附する 4 ステップ

① 専用フォーム
から申し込み



② 商品を箱や
紙袋に詰める



5冊～送料無料

③ 希望日に宅配
業者が集荷



④ 桜ライン311
へと寄附



着なくなった洋服、 眠っているブランド品を 活動へ寄附しませんか？

往復送料無料でダンボールに詰めて返送するだけ。
わずか3ステップで手軽にできる買取寄附サービスのご案内です。

カジュアルなブランドの服や小物まで幅広く寄附できます

服やハンカチ、タオル、スカーフなどの小物まで寄附することができます。多少の汚れや傷があっても、使用するのに難がない程度であれば問題ありません。ご自宅のお片付けを通じて、ぜひお気軽にご協力ください。



あなたの品物の寄附が団体の活動支援に変わります

買取額に関わらず300円～500円の寄附が団体に上乗せされます
ぜひ検索をして団体ページをご覧ください

桜ライン311 ブランドプレッジ



3ステップのお申し込み方法

1 買取寄附申込み
をする



スマートフォンのカメラで
読み込むとお申し込みページ
が開きます

2 品物を送る (無料)



お電話一本で宅配業者が
集荷に伺います

3 寄附金額を
設定する



1～3日で届く査定結果のメール
にご返信いただきます



設定金額
金額寄附が
行われます

ご不明点は運営事務局までお問い合わせください

✉ store@value-books.jp (チャリボン運営事務局)

ご利用ガイド



VALUE BOOKS
X
桜ライン311

ご不明点は運営事務局までお問い合わせください

✉ メールアドレス: support@brand-pledge.jp (Brand Pledge運営事務局)

よくあるご質問



BRAND
PLEDGE

Syncable
Brandear

会計報告

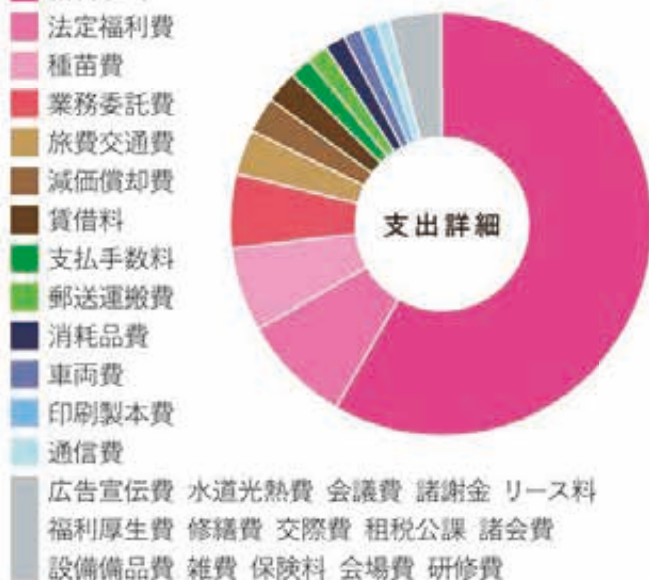
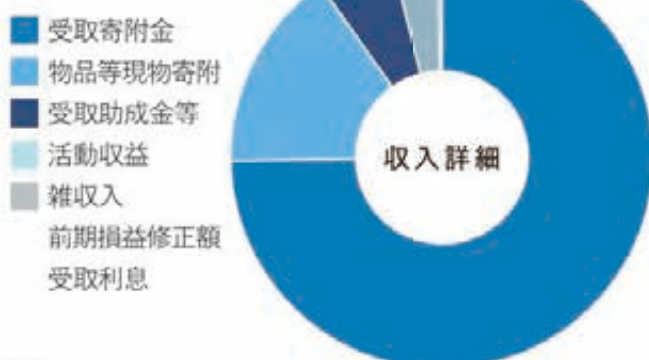
認定特定非営利活動法人桜ライン311 2024年度会計報告

【事業期間】2024年7月1日より2025年6月30日まで

総額	前期現金預金等繰越額	224,430,529
	当期収入総額	25,838,863
	当期支出総額	49,060,069
	当期正味財産増減額	-23,221,206
	次期現金預金等繰越額	201,209,323

収入詳細	受取会費	0
	受取寄付金	19,317,686
	物品等現物寄付	1,501,100
	受取助成金等	3,985,344
	活動収益	942,000
	受取利息（経常外収益）	92,733
	合計	25,838,863

支出詳細	給料手当	28,586,926
	法定福利費	4,127,549
	福利厚生費	136,489
	広告宣伝費	368,500
	交際費	90,273
	会議費	217,114
	旅費交通費	1,707,949
	通信費	508,830
	消耗品費	763,145
	水道光熱費	356,641
	諸会費	72,860
	支払手数料	840,042
	車両費	663,550
	賃借料	1,206,600
	リース料	155,760
	保険料	34,480
	租税公課	89,600
	減価償却費	1,345,140
	雑費	49,077
	諸謝金	202,000
	郵送運搬費	806,051
	印刷製本費	618,329
	会場費	7,915
	種苗費	3,163,481
	設備備品費	70,000
	修繕費	103,092
	研修費	5,000
	業務委託費	2,763,676
	合計	49,060,069



※1 桜ライン311活動基金

桜ライン311各事業への将来利用を目的として、理事会にて積立/取崩し/管理される基金です。尚、当基金は100%事業への使用となります。

※ 直近年度の詳細な事業報告等書類につきましては、桜ライン311の団体HPよりダウンロード可能となっております。ダウンロード可能な各書類は、「認定NPO法人等の情報公開」に基づき、「活動報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録、注記事業別経費の状況」の5点です。ご要望いただければこちらから印刷してお送りすること、過去の決算書のご提供も可能です。その際は事務局までご連絡ください。

桜ライン 311 活動基金 ※1

前期繰越特定資産	123,037,214
特定基金受取利子（経常外収益）	56,873
当期積立額	0
次期特定資産総額	123,094,087

組織概要

2025年6月末現在

正式名称	認定特定非営利活動法人 桜ライン311
代表理事	岡本 翔馬
設立	2011年10月16日
法人格取得	2012年 5月 1日
認定NPO法人取得	2014年 5月 1日（更新2024年5月1日）

代表理事	岡本 翔馬
副代表理事	伊勢 友紀（事務局スタッフ兼任） 中井 勝義
理事	松田 恵美子 東平 享浩 小川 光一
監事	石井 宏明 在間 文康
植樹事業部部長	佐々木 正也
事務局スタッフ	矢作 彩子 佐藤 一男 太田 海 嶋村美和 齋藤浩之 水野昌司 細田聡 新沼貴史 長野守

受賞歴

2012 一般財団法人日本ファッション協会
日本クリエイション賞

2014 公益財団法人日本デザイン振興会
GOOD DESIGN AWARD 2014 金賞

2015 一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会 第1回ジャパン・レジリエンス・アワード優秀賞

2016 公益財団法人ソロボチミスト日本財団
社会ボランティア賞

2017 国土交通省手づくり郷土（ふるさと）賞
一般部門グランプリ

公益財団法人日本さくらの会
平成29年度さくら功労賞

2017 「東北みらい創りサマースクール」実行
委員会 第6回東北みらい賞

2018 株式会社毎日新聞社
第7回「地球未来賞」クボタ賞

吉野正芳復興大臣より感謝状 授与

2022 令和3年度「新しい東北」復興・創生の星
顕彰

2024 ぞぶん賞SCGs大賞 審査員特別賞
地域文化SDGs賞

